



2021 RACE REPORT

スーパー耐久シリーズ 2021 Powered by Hankook

第2戦 SUGO スーパー耐久 3時間レース

#52 埼玉トヨペット GB クラウン RS

2021年4月17日(土) ~18日(日)

スポーツランド SUGO (宮城県村田町)

■ ■ ■ ■ 最後尾からの大逆転！ 今季初優勝を達成 ■ ■ ■ ■

スーパー耐久第2戦がスポーツランド SUGO で行われました。レース時間は3時間。予選と決勝はそれぞれ Gr.1 と Gr.2 に分かれて行われ、ST-3 クラスのクラウン RS は Gr.2 に出場。ST-3 クラスのエントリー台数は6台です。

予選日の天候は雨。A ドライバー、服部選手は予選開始の合図とともにコースイン。5周目に1分42秒082をマークし、4位につけますが、タイヤの違和感を訴えており、心配な状況です。B ドライバー、吉田選手は最初のアタックで1分43秒591をマーク。しかし、服部選手と同じ症状を訴えており、ピットでタイヤを交換します。吉田選手は再度アタックを行いますが、ベストタイムを更新できず。ST-3 クラスの最後尾、予選6位となりました。落胆するチームに追い打ちをかけたのが C ドライバー、川合選手の走行時に発生したマシントラブル。ドライ

タイヤで走行中、S 字コーナー立ち上がりでスローダウン。コースサイドにストップしてしまいます。ピットに戻ってきたクルマを点検したところ、ターボチャージャーにトラブルを抱えていることが判明。修理には数時間を要するため、D ドライバー、平沼選手の出走はなし。予想外の出来事でしたが、スタッフが問題の部品を交換し、各部を点検し修理は完了しました。エンジン自体に問題はなく、早めにクルマを停めた川合選手の好判断に救われました。

決勝日の天候は晴れ。3時間レースでのドライバー交代義務は2回のため、チームは川合→吉田→服部とつなぐ3ステイント作戦を実行。コースを熟知している D ドライバー、平沼が第1コーナー上からチームに情報を送ります。川合選手はドライタイヤを履いてスタート。6位のまま1コーナーに進入し、#244 フェアレディ Z をパス。5位で1周目を終えます。川合選手のペースはライバルの中で一番速く、2周目には#15 フェアレディ Z と #41RC350、さらに4周目には#39RC350 を抜き、2位に上がります。5周目には#62RC350 を抜き、トップへ。しかし、#62RC350 も食い下がり、2台によるバトルが続きます。翌周にはいったん順位を入れ替えますが、13周目に川合選手が再びトップに立つと、2台の差が開き始めます。ところが26周目、ST-5 クラスのマシンがクラッシュ。すぐにセーフティカー (SC) が導入されます。川合選手は作戦通りすぐにピットに入り、吉田選手に交代。店舗メカニックが給油とタイヤ交換を行い、スムーズに吉田選手を送り出します。ほぼ同時に#62RC350 もピットイン。タイヤ交換を行っておらず、吉田選手の順位は#41RC350、#62RC350、#15 フェアレディ Z に次ぐ4位となります。

32周目からリスタート。上位3台は吉田選手の目の前で、1周の間に2台をパス。2位まで上がります。トップの#41RC350 との差は約7秒。2台の差はみるみるうちに縮まり、38周目の終わりにはテールトゥノーズとなります。39周目の SP コーナーで吉田選手がインを奪いトップへ。吉田選手は後続との差を広げながら、約1時間半のロングステイントを走破。74周目の終わりにピットに入り、服部選手に交代します。給油とタイヤ交換を行い、服部選手は2位でコースに復帰。トップの#39RC350 はドライバー交代義務を残しており、服部選手が事実上の1位です。服部選手は83周目の終わりにトップに立つと、後続との差をコントロールしながら走行。#39RC350 に約20秒差をつけ、今シーズン初の優勝を飾りました。

決勝結果 (ST-3 クラス)

#52 埼玉トヨペット Green Brave クラウン RS
(服部尚貴 / 吉田広樹 / 川合孝汰 / 平沼貴之)
決勝：1位 (111周、3時間00分50秒934)
予選：6位 (合算タイム3分25秒673)



DRIVERS VOICE

【服部尚貴選手】

2人がマージンを作ってくれたので、私の役目はクルマをいたわりつつ、後ろのギャップを確認しながら走ることでした。できるだけマージンをつくりながら走っていましたので、ある意味私のパートは楽でした。メカニックがすべての作業をパーフェクトに行ってくれたので、そこが今回の勝因です。みんな頑張ってくれたと思います。初日の練習ではミスもありましたが、最終的には完璧なピット作業をやってくれました。

【吉田広樹選手】

水曜、木曜と服部さんがドライで走っていて、ペースは悪くありませんでした。何を求められているかを考え、無理することなく走れたので良かったと思います。後ろとの差は開いていったと思いますが、ドライビングは一杯一杯。これ以上プッシュできないレベルでした。孝汰が20周ぐらいでタイヤが厳しいと言っていたので、服部さんが無交換になった時のことを考え、できるだけ使わないように走っていました。

【川合孝汰選手】

天気はかなり良くなり、思ったより路面の乾きも早かったです。昨日のウエットとは全然状況が違うので、アジャストしながら走りました。序盤からドライタイヤで走れたのは良かったですし、ペースも良かったです。昨日夜遅くまでメカニックのみなさんにクルマを直してもらい、今日のウォームアップから調子良く走れました。

【平沼貴之選手】

ストップした原因がわからないので、次の走行までの時間ではちょっと厳しいですね。店舗メカニックは見るべき箇所もよくわかっている、さすがだと思います。明日のレース自体は心配していません(予選後)。

MECHANIC VOICE

【東川口支店・會田好昭】

右のホイールガンを担当しました。チームの雰囲気はとても良く、やりやすいと思います。クラウンは併売になってまだ時間も浅いので、整備する機会はそれほどありませんが、お客様のクルマは当然大事に扱わなければいけないですし、レースのクルマはトラブルがないことが大事なので、どちらも大事だと思います。

ST-3 クラス決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	埼玉トヨペット GB クラウン RS(トヨタ クラウン)	111周
2位	エアバスター Winmax RC350 TWS(レクサス RC350)	111周
3位	HELM MOTORSPORTS RC350(レクサス RC350)	111周
4位	QUEEN EYES 34Z(ニッサン フェアレディZ)	110周
5位	岡部自動車 RECARO フェアレディZ(ニッサン フェアレディZ)	110周
6位	エアバスター 55Garage RC350 TWS(レクサス RC350)	110周

出走 6台

ST-3 クラスポイントランキング

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	52	埼玉トヨペット Green Brave	40
2位	244	Max Racing	40
3位	39	TRACY SPORTS with デルタ	37.5
4位	62	HELM MOTORSPORTS	26
5位	15	OKABEJIDOSHA motorsport	23
6位	41	TRACY SPORTS with デルタ	15

PARTNERS



赤城車体工業株式会社



アルパインマーケティング株式会社



EMG ルブリカンツ合同会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



株式会社 FM NACK5



大宮クリーン社・大進カーエアコン



株式会社岡崎巧芸



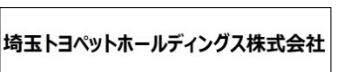
株式会社カーグラス・J P



株式会社クールホールディングス



埼群スリーボンド株式会社



埼玉トヨペットホールディングス株式会社



株式会社三和広告社



JU 埼玉オートオークション株式会社



株式会社テレビ埼玉



株式会社デンソーソリューション

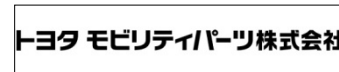


株式会社トイファクトリー

インターナショナル



株式会社ドーム



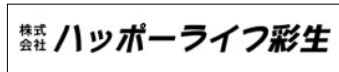
トヨタモビリティパーツ株式会社



トヨタホーム東京株式会社



株式会社トヨタレンタリース新埼玉



株式会社ハッポーライフ彩生



株式会社プロモーション



株式会社プロモーション



丸和工業株式会社